

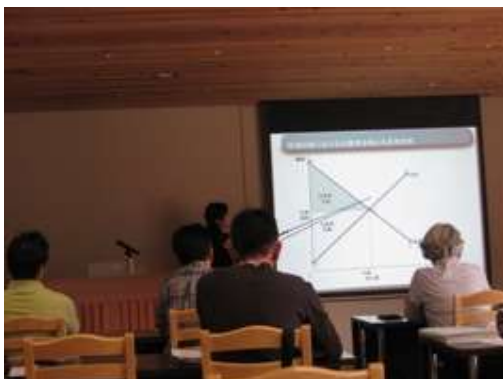
企業活動の進め方Ⅱ

社会とのかかわり

日時：平成22年10月3日（日） 10:00～15:00

講師：濱口 泰代（名古屋市立大学経済学部准教授）

概況



◎市場の利点(AM)

・市場の利益

消費者が市場から得られる利益は以下のようなことがある。市場経済が発展すればするほど、大量の商品やサービスを消費者は受けることができる。消費者は商品に対して支払ってもよいと思う金額以下の値段で、物を買うことができる。・市場の特性 市場では以下の3つの特性がある。支払許容額で測ったときに高い価値をつける買い手が商品を手に入れる。低い費用で生産できる売り手に売上をもたらす。消費者余剰と生産者余剰の合計を最大にするように取引数量が決まる。

・市場の問題

人々の経済活動を市場にまかせておくと、環境問題を引き起こす可能性がある。買い手と売り手が自動車の排気ガスなどの負の外部性を考慮に入れないとき、人々全体の豊かさが最大になれないと言われている。

◎地球温暖化と環境政策(PM)

・地球温暖化とは

ハンセン博士は「私は99%の確率で地球温暖化が起きていると思う」と証言した。その原因は人々の経済活動によるもので温室効果ガスの排出量が増え、地球全体の温度が上昇すると言われている。

・地球温暖化のしくみ

地球の表面には窒素や酸素などの大気を取り巻いている。地球に届いた太陽光は

地表での反射や輻射熱として最終的に宇宙に放出されますが、大気が存在するので、急激な気温の変化が緩和されている。大気中の二酸化炭素は 0.03%とわずかですが、地表面から放射される熱を吸収し、地表面に再放射することにより、平均気温を摂氏 14 度程度に保つのに大きな役割を演じている。

・地球温暖化の問題について

1. 京都議定書

先進国の温室効果ガスの削減目標を拘束力のあるものとして、二酸化炭素などの 6 種類の温室効果ガスについて 2012 年までの間に、先進国全体で 1990 年水準と比べて 5.2%削減するものである。現状、発展途上国では気候変動はエネルギーを大量消費して経済発展を遂げた先進国の責任という意見がある。一方、先進国では将来の気候変動を抑制するためには、急速に経済成長する発展途上国も削減義務を負う必要がある意見で対立している。

2. 排出権取引

温室効果ガスを効率的に削減目標を達成するための制度を排出権取引と呼ぶ。排出権取引制度は価格変動のリスクが大きい可能性などの注意がある。現状、二酸化炭素は増え続けているので、日本に割り当てられた温室効果ガスの削減目標を達成できるかどうかは厳しいと見られている。